

令和6年度第2回奈良県社会教育委員会議（概要） 〔報告書〕

- 1 日 時 令和7年2月27日（木） 15:00～17:00
- 2 場 所 奈良県立教育研究所 中講座室4
- 3 出席委員 委員名簿記載のうち
大谷裕美子 奥田保枝 河崎智恵 工藤将之 杉山晋平 高島幸子 高田聡
田仲敦三 中川里美 東野佳代子 疋田進一 福本亜紀 吉田甚造（敬称略）13名
- 4 内 容 （1）開 会 あいさつ 奈良県教育委員会教育長 大石健一
（2）委員紹介
（3）議 事
①奈良県における社会教育の振興について
②奈良県社会教育振興方策について



5 委員からの主な意見

【奈良県における社会教育の振興について】

○各市町村において、社会教育主事の任用資格者は、適材適所に配置されているのだろうか。職員の人事異動等により別の部署にいることも考えられる。

○地域の中には、様々な分野で活動している方が多くいる。このような方が「社会教育士」に興味をもてるような仕掛けをつくる必要があるのではないか。

○社会教育士の資格を取得した方どうしが、持続可能な活動ができるようなシステムをつくるなど、県がフォローアップしていくことが必要ではないかと思う。

○各市町村における社会教育委員が高齢化している現状がある。若い世代の社会教育委員の任用や若者の社会教育への参画が必要ではないか。

【奈良県社会教育振興方策について】

○県内で、社会教育士の資格をもっている方が活躍している様子を載せたリーフレットを作成し、各市町村の社会教育担当窓口や公民館で配布して、社会教育の大切さを伝えることは良いと感じた。

○社会教育士の活躍を記載したリーフレットは良いと思う。ペーパーベースだけでなくオンラインによる情報提供もあれば良いのではないかと思う。

○社会教育士の資格を取得されるのは、行政職員や公民館職員、一般の方なら地域の協議会などで活躍されている方などが考えられる。リーフレットの作成に向け、「どのような方が社会教育主事講習を受講して、社会教育士を取得して欲しいか」というねらいをもって作成する必要があると感じた。

○社会教育委員は、それぞれが自立して調査研究ができる。例えば、数名の委員が集まり、奈良県社会教育について学習会ができればと思う。

